戰爭はいやだ!!平和憲法を守り抜くぞ!!

発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
振替 528 475 番
編集発行人　平尾徹治
三鉱労組　印刷工場
三鑛労組機関紙
松川事件特集号

比類なき人殺し判決

松川事件控訴審はこうしてデッチ上げられた

花園政對部長眞相を報告

去月二十四日、仙台高裁で行われた松川事件の第二審判決に先立ち「松川事件公正判決要請全国国民大会」が二十日東京神田教育会館で開かれ三鉱労組から花園政対部長が代表として、これに出席大会終了後直ちに仙台に赴き控訴審のてん末を具さに傍聴すると共に結審後開かれた抗議大会に推されて議長となり、政治的陰謀に基くデッチ上げ判決に飽くまでも反対し、広汎な国民的与論をまき起すべく各方面と連絡をとってその後も活ぱつな運動を行って居るが、花園政対部長は去る八日の中央委員会に濃りをもって松川事件判決に至る眞相を報告、岡中央委員会は満場一致で不当判決撤回に起ち上がる事を決定した。

松川事件の發端

既報の如く、松川事件は昭和二十一年度金をはずし大釘を抜きとって四年八月十七日未明、東北本線青森発上野行旅客列車が松川駅附近で何者かの手により、レールのくぎより一ケ月前に下山事件、引続き三鷹事件、そして松川事件と、その度毎に当時の吉田内閣は「共産党の仕業だ」と断定、国民にそのように思いこまされた。事件発生最も惨怒極まりなき列車転覆の一大惨事を惹起させた。この事件後、元線路工夫赤間勝美氏（十八才）が逮捕され、執拗、強引な取調べ、拷問、脅迫、誘導、揚句の果て、国鉄及び県警各十名が逮捕され、列車脱線罪で起訴された。

第一審は昭和二十五年十二月六日福島地方裁判所で下された判決は死刑五名、無期五名、懲る十名に計九十五年六ケ月の大極刑だった。このデタラメ判決に対して被告と弁護団は即刻仙台高等裁判所に控訴し、全世界の人々に無実の極刑撤回闘争に立上ったのである。我々三鉱労組もその闘争に遅れはせながら激励抗議を行って過ぎる十二月二十二日を迎ったのである。

權力の庇護のもとに

全世界の注目を集めた世紀の裁判松川事件の控訴審は十二月二十二日、仙台高等裁判所で開かれた。この朝 仙台の空はドンヨリ曇って一面灰色に覆われ、今にも雪が降り出しそうで冷い風が吹きまくり、青葉城跡をのぞむ高裁前に続々とつめかける。全国労組代表始め民主団体文化人、学識経験者等一、五〇〇有余名と反面林立する武装警官と私服警官約一、〇〇〇名、更にMP搭乗員、空には米軍のヘリコプター盛んに旋回し、なんとなく異様な空気の中、第一審以来百十回開かれた公判で第一審のデッチ上げ判決をことごとく覆し、今日の第二審判決は絶対に無罪の判決以外にないと、確信する反面、乱舞するヘリコプター、行き交うMPのジープ、林立する武装警官等見ると只事の判決ではないぞと緊張した複雑な気持で列の中で順番を待つた。

一、五〇〇有余名の行列中入場者は九十九名とられその中一枚は何とかして入手せねばと思いつゝ、午前九時五十分やっと入手出来た傍聴券を手にして三階法廷まで殺伐傍聴券提示・身体検査等数回繰返し九州の三池炭鉱労働組合から来たてやっと入廷、この大裁判を一刻と一日云っただけで被告の者様は「大変御苦労様でした、三井の企業整備の話、十分御伺いしています」と一人々々の気持が、短い限られた時間の中にハツキリ感じとられ、生々とした皆さんを見て、本当に闘ってる満々で権力の陰謀にゴマかされず、四年有余闘い抜いた被告の皆さんを激励し明日の判決に絶対の確信を持つて別れた。

法廷で見る被告の顔色は全く明るい。後数分後で無罪の判決を確信して傍聴者の皆さんと握手する興奮度に緊張一杯の法廷を明るくさせるものがあった。

寫眞説明

上より ①仙台高裁の判事席、ニュースカメラマン多数出動。②風想を超越した多数の弁護団 ③無罪を確信する被告達 ④裁判所外で無罪の判決に涙する人々 写真下は松川事件被告の人々、彼等は自己の正しさを信じて輝く眼をしている。

感想文【一席】

「首切闘爭について」

—其の批判的回顧—

三川今田光義

吉田政府のあくなき労働運動弾圧政策のもと又もスト規制の悪法成立するや翌日、会社は組合骨抜きの意図を露骨に露った経営合理化と言う名の首切りを発表、労協を踏みにじって強行して来た。此れに対して吾が三鉱の労働大衆は毅然として起ち其の白熱的闘争意識は会社を驚愕させ、高度な戦術と相まって圧倒的攻勢裡に闘争は発展して行った。此の素晴しい闘争意識は言うまでもなく一時的に生れたのではなく過去の闘争の中より育成されて来たのである。此の燦然たる闘争の戦術の中で指名ストを最大の打撃を与える高等戦術で決定的な勝因をなした。とは言え此の戦術に依る必然的な賃金減額に案外多くの人達が動揺し、一時的にせよ民労運の盛動する間隙を与えた事は見逃す事が出来ない。低賃金制打破の闘争が現在の最低生活をより一層窮乏化させる因果関係は、如何なる闘争にもまってはまり労働者が宿命的に負された十字架である。勿論吾々の出血を極視する事は出来ないが、又徹に最大の打撃を与えねば意味をなさぬ。此の点指名ストを最大闘争は双方の条件を充分満たして居た筈と思う。他の労組に於て先の様な動揺が分裂主義者の優勢する所となり会社の盛動のもとに第二組合が結成されて居る現今、深く反省せねばならぬと思う。一方大衆動員は地味な職場闘争に較べて会社との直接交渉の面だけに今次闘争の花形であり世間の注目を浴び会社を驚かせ指名ストを最大闘争に劣らぬ勝因をなした。時に族婦協は其の威力を遺憾なく発揮し闘争の大きな推進力となり今後の組合運動の闘争形態を変革させる礎となった。家族を含む此の烈しい大衆闘争は会社に強力な圧力をかけたばかりでなく、大衆自身を益々意識化し偶いの勝利を信念させた。しかし此の大衆動員に於ても隙がない訳ではなかった動員を解散する時に大衆と執行部の意見の対立が数回繰返された。其の大衆の数は回数を経る毎に減少しては行ったが。其の大衆は会社との交渉の満足な解答を期待するに誠意の余り冷静な判断を欠き、幾分気分的な弾圧をあえてした。しかし此の様な弾圧は彼等自身の正体を暴露し、吾々の団結を強固にする所も見られた。文藝行部も自己弁護に急な余り大衆を育成する言う気概と余裕を欠いた憾みがあった。しかし此の様な部分的欠点を見せつゝも闘争の経過と共に大衆と執行部は益々密着し飛躍的に成長して行った。此の組合の圧倒的攻勢に会社は愈々窮地に追こまれるや、遂に権力に依る組合弾圧が開始された其の頃すでに官憲に依る介入の機を窺って居た権力機関は、暴力的弾圧を露骨に表示し、吾々の燦然たる団結にたじろぐや、奥様にも個人的不当検挙に依る弾圧をあえてした。しかし此の様な弾圧は彼等自身の正体を暴露し、吾々の団結を強固にする事になるのだ。

以外の何ものにもならなかった。かくして闘争の経過にしたがい益々強化する吾々の団結と極端な減炭に会社は遂にいまだかつてない完全な敗北を示し、吾々の英雄的闘争は労働運動史に燦然たる一大金字塔を打ち立てた吾々は今次の首切闘争から労働者の幸福は闘いに依ってのみ生れると言う事実を学んだ。今後も吾々は瞬時の停滞も許さぬ強力な闘争を続けねばならぬ。それによって首切闘争を単に吾々の勝利としてゞなく、労働運動に重大な転機を与え、歴史的にも重要な意義をもたらすと言う事になるのだ。

前進

炭勞大会に寄す

かつての六十三日の激烈なる賃闘を闘いぬいた名誉を擔う炭勞も今度の闘争には強力なる統一闘争として形においても、實質においても闘いを組織することが出來ないでいるのが否定することの出來ない現實である。

一、三分會様式による交渉形態を採用しなければならなかつた事情

二、年内解決を目途としての二十二號指令の實施されなかつた事情

我々は炭勞を熱愛するが爲、我々の唯一の産業別組織として今後も強力に盛上げ育てゝ行くためには目を覆うことなく、くさい物にはフタをすることなく率直なる氣持ちを出し合つて現在の炭勞を強化するためには如何にしなければならぬかということを眞剣に討議しなければならぬ。現在の炭勞の内藏する複雑なる内部事情も凡ゆる角度から建設的に論議されるべきである。炭勞執行部もけん讓なる立場にたつて自己批判し、組織の整備強化のためには堂々と大會の批判を受け所信を披瀝すべきである。企業整備闘争を闘いぬいた三井といわず、各資本別の山元幹部といわず、それぞれの資本別エゴに立てこもることなく一意に如何にしたならば産業別が強化されて行くかを考えるべきである。露骨に資本別エゴが主張され續く間は炭勞の整備強化は期待し得ないであろう。今度の炭勞大会のもつ意義はきわめて重大である。現在闘つている賃闘の強力なる闘いの方向を決定付けるものである。敵階級も豫想以上の関心をもつているであろうし組合員一人々々が自分達の身近かなる問題として希望をもつて注目している事實を銘記したい。

下部大衆曰く「あの厳しい六十三日の長期の闘いを苦樂を共にし、炭鑛勞働者としての階級的連帶性の立場にたつて友愛と信義の熱い血の結合により闘いぬいた歴史的闘争を想起するならば今次の賃闘が闘えぬ筈はない」と一般大衆が何を求め考え望んでいるかを知るなら問題はカン単である。唯一途に組織を愛し組織にそのより処を得て苦しい生活を甘受し闘つているではないか。如何にしたならば組合員の幸福を招來せしむることが出來るかという一點に考え方を集中されるべきであるもしも炭勞執行部と下部組合員の間に介在するものありとするならば、断固大衆の賢明なる批判によつて一掃すべきである。要は炭勞大會に希求するものは「闘う」という完全思想統一による炭勞の整備強化である。炭勞大会が賢明なる代議員諸氏による建設的討議の中から前進したる結論が出て有終の美によつて飾られることを心から切望するものである。

新年・文藝入選者の方は所屬支部で印鑑持參の上、賞金賞品を受取って下さい（編集部）

判決中

三体性なき裁判官

ニタニタ笑う陪席判事

詩人草野心平・憤りを詩う

定刻十時一寸前焦ってる面持ちです。被告人岡部市次、岡二宮豊無鈴木裁判長は風目敬を開いて判決朗読役に処す。被告人太田省次、背類を出し、カメラマンの退場を命じて十時カツキリ開廷を宣言、先づ型通り法廷秩序維持について注意、判決言渡し順序等の説明をする鈴木裁判長は椅子の視線が傍各人の判決理由を聞いていた被告中する。高裁前広場には約一、五〇〇名の人々が二審の勝利を確信しての大合唱が聞えてくる。主文朗読、被告人、鈴木信、岡本田昇、岡杉浦三郎、岡佐藤一を死刑に処す鈴木裁判長が主文朗読をしている間で、高橋陪席判事ニヤ～とさも嬉しそうな顔をしてヒナ壇から一同を見下している。これを眼に止めた弁護人（四〇名入廷）が立上り「人を殺すと云う極刑判決をしている真最中、森石松ではあるまいし、ニタ～笑いながら死刑の判決を下すとは人道上の全く許されぬ犯罪だ」と共々厳重に抗議申したが、高橋判事依然笑いがとまらず、釈明させると「私のくせだから…」と云訳したが、依然止まない。鈴木裁判長の注意でやっと笑顔が真険なお行われた。

一方高裁前で二審の勝利を確信し、不当な裁判！欺瞞に満ちた判決と叫び最悪の場合でも証拠不十分で労働歌を合唱しながら待機している抽籤漏れの傍聴者に中間報告釈放だと考えていたのにと訴えれば、スクラムを組んで労働歌合唱が行われた。

法廷傍聴した各層の代表が共々立ち法廷傍聴した各層の代表が共々立ち者も又涙、涙…

廣場前で抗議大會

辭衆は裁判所の門前にかたまり歌を歌い旗はなびき

その上に粉雪が降っている

何時間も～立去らずに

粉雪の中に

裁判官が人の死を云渡している時 陪審の判事は薄く笑った

何故笑ったのか

人が人の死を云渡したとき

粉雪は降り続ける

判事は薄く笑い続けた

鉛色の天から

こんな美しい雪微じんが降ってくるのに私はあの判事のあの薄ら笑いを一生忘れることが出来ないだろう

石の大門はあふれる人を入れず

抗議デモ大會

閉廷後全員宮城拘置所正門前に続々とつめかけ無期から無罪になった武田久氏始め保釈組 及び全被告の家族を最先頭に仙台市城の刑務所前を出発したデモ隊は赤旗プラカード掲げを手にして労働歌を合唱しながら折からのボタン雪の中を二時間半にわたり抗議デモ敢行、この間両側には約四、五米間隔に警棒をもつ武装警官のモノモノしい警備陣頭から雪に白帽子をかぶり仙台市公会堂に到着したデモ隊は、抗議大会を逐刻開催二、〇〇〇名取容可能と云われる公会堂も超満員、先づ議長団選出挨拶後、弁護団より経過報告、引続き被告団、弁護団の各声明書発表、被告及家族の各挨拶後、今後の闘いの方針の討論集約、大会声明書採択、閉会、その間三時間半、大会は終始司法権を何者かに盗渡した日本民族の自由と永遠の平和とを希求する我々に挑戦して来た。ファッシズムと闘う為熱心に進められた。闘いの指針、決定！決議、

辯護團の特色

「本事件は共産党の陰謀と断定されているが、全く嘘う。これをそう云う人がいるならそれこそ松川事件を知らぬ人の云う事か、権力にコビを売る人だろう。

たとえ間違っていて共産党の陰謀としても無実の人達がそれが共産党であろうと自由党であろうと破刑に処されて殺されると云う事は絶対に許さるべきでない、日本の弁護士として司法権の独立だけは如何なる事があろうとも守り通さねばと云う気持で私は本事件を担当しています。皆さん御承知のように私は自由党員で仙台地方の弁護士会長をしている待田でありますが、これは弁護団副主任待田弁護士の挨拶である。

無罪を確信し明るい被告團

寶國判決はもう御免だ

忍び難きを忍び

デッチ上げ判決をきこう

午後一時十分開会されたが冒頭被告団は原審の焼直判決はもうきかない。我々は退廷すると表明、口口に真実は必ず勝つと絶叫して裁判官に涙の抗議、弁護団、傍聴席に共闘を、涙を流して訴えて嵐のような拍手の中を退廷「頭張れと」の仇は必ずとってやるぞ」「真実を涙で霧にして見返るこの裁判官は只呆然となす術を知らず。

被告団の退廷した後、被告の居なくなった傍聴席は、「真実は必ず勝つ」と叫び、「法廷を用なしと主張する弁護士を守り抜く為に」と弁護士の提唱による傍聴者の皆さんが、「本日の裁判は全く無責任極まりなき判決だ、我々も全く聞くに堪えない。

但し如何なる角度よりかゝるデッチ上げ判決をなして極刑を下したか忍び難きを忍んで聞く」と表明して、午前に引続き鈴木裁判長の事務的な声が響くとした法廷に力のこもらぬ泣くような声できこえる。三時二十分閉廷。

直に最高裁に上告

松川事件弁護団は同席で速刻、この不当判決に対する協議を行った結果、無罪の判決を受けた武田久氏始め保釈組、及び全被告の家族を最先頭に仙台市城の刑務所前を出発したデモ隊は赤旗プラカード掲げを手にして労働歌を合唱しながら折からのボタン雪の中を二時間半にわたり抗議デモ敢行、この間両側には約四、五米間隔に警棒をもつ武装警官のモノモノしい警備陣頭から雪に白帽子をかぶり仙台市公会堂に到着したデモ隊は、抗議大会を逐刻開催二、〇〇〇名取容可能と云われる公会堂も超満員、先づ議長団選出挨拶後、弁護団より経過報告、引続き被告団、弁護団の各声明書発表、被告及家族の各挨拶後、今後の闘いの方針の討論集約、大会声明書採択、閉会、その間三時間半、大会は終始司法権を何者かに盗渡した日本民族の自由と永遠の平和とを希求する我々に挑戦して来た。ファッシズムと闘う為熱心に進められた。闘いの指針、決定！決議、

20万圓の夢

勞働金庫定期預金案内

麗岡県労働金庫では第一回割増金附定期預金を次の要領で募集中であり、多数組合員の預金を希望している。

△一口＝五百円（期間一ケ年）
△取扱期間＝28年11月16日～29年2月15日
△抽せん日＝29年4月4日
△割増金支払日＝29年4月12日
△特賞＝二十万円（一本）　二等＝三万円（九本）　三等＝五百五十円（三十本）
△一等＝五百円（七千二百本）　四等＝五十円（六万本）　利息＝二十円全本数
△取扱所＝大牟田市曙町笹林公園内労金大牟田支所

入選二席

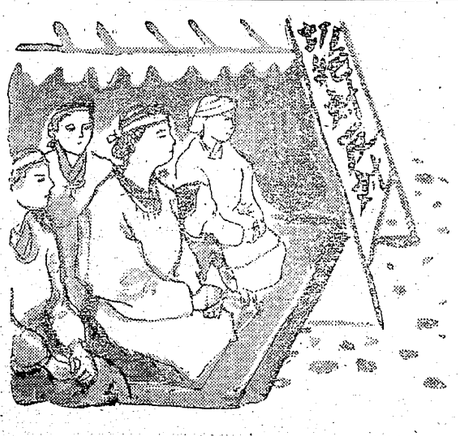
我家の春

伊藤正一作
久慈悠一画

すりこぎのようにすりへらした足を引きずりながら井上春雄は鉢巻姿の親父赤子の春夢、親子三人、バス、自転車の行交うアスファルト路を家路へ急ぐ「今日のデモは三万以上はあったよ、今までのメーデーでもこんな興合した事はないよ」「そうね、ほんとにえらい人だったわ」「首を切られたらおまんまの棚上げになる問題だもの」「貴男が首になったら、私ボロ買、地金ひろいね」「淋しい事を言うな」「でも六十の坂を越した祖母さんまで族婦協の鉢巻でワッショイワッショイと行進の中に俺の顔を見つめていたが、目には何ものか光っている。会社のえらい人や〇〇会のザーマス連中に私春雄・人、祖母ちゃんおみやげよ」「おばあちゃん皆が無いからビスケットのおみやげ春雄ちゃんも大すきに成ったかね！「春雄首切の手紙じゃ無いだろうね」「はあ、なんの書留でしょうね」「貴男をにこにこ」「有難う」「今夜、一合歩增付けとくわ」「はばかる宜しく御願いしとくさ」

「ねえ貴男、今日来て居た人の中に、全被告を無罪釈放せよ」

「ねえ貴男、今日来て居た人の中に居る「祖母ちゃんその書留は」「関を明けると同時に老母が「春雄来たよ」「書留が！」「組合の方も配達さんと一所に見えてふうを切らずすぐ組合に持って来るよう主人が帰られたら申してと云って帰られたよ、それで二信に自転車で早く父様の帰るよう一時間ばかり前に出した処だったが、行き違いに成ったかね！「春雄首切の手紙じゃ無いだろうね」「はあ、なんの書留でしょうね」「貴男をにこにこ」「有難う」「今夜、一合歩增付けとくわ」「はばかる宜しく御願いしとくさ」



あゝ茶棚の引出しの中に印鑑と一しょに入れて置きましたよ」大牟田市大黒区小川社宅十五棟井上春雄殿、丸三鉱業所と「首切状だ」一方八千の組合員千七百人の一人俺もその一人だ、「よし見ておれ俺を首にしたやつ」いきどおりはむらむらとこみあげ、ひふんの涙と化して行く。

その夜は更けて四人の子供は無心の寝顔でスヤ～とねむりつている。いたづらに目にしみ込むものは紙天井に雨もりで書かれ、どす黒い世界地図、二人きりに成つたほの暗い電燈の下、しみじみと顔を見合わせ「貴男どうするの」「俺はも！度職場に帰るんだ、そうして首を切ったやつを首にするんだ」と元気の声で云ったものの、はたして組合に頼っていても勝つのか、昨年の六十三日間のストライキ、今夕組合へ行く時見た退職応援者の加給金と組合不信の敗北感におそわれて来る。

又新しく調の中に時々家へポロ買に来る三年前退職した神田君の顔、又昨日退職をしている山下円（七千二百本）四等＝五十円（六万本）利息＝二十円全本数